

つるみの風

あなたは天使を信じますか

全世界のキリスト教会は、今年も一月二八日よりアドベント「待降節」に入りました。クリスマスイブの二四日まで、毎週一本ずつアドベントクラツのろうそくに灯火を増やしながら、クリスマスを待望します。今年ほど、全世界が「待望」ということばを共有する時は過去なかったのでは、とも思いますが、せつかくコロナ禍が終息へ向かうと思いきや、海外から届くデルタ株の再拡大という残念なニュースに加え、またぞろ新種オミクロン株も登場。旧約の詩人が「私は主を待ち望みます」(詩篇一三〇・五)とイスラエルの再興を願ったシンブルなことばが胸に迫るので、ごめんなさい、冒頭から重いトーンとなりました。季節は秋から冬へ。皆さんいかがお過ごしでしょうか。

ところで皆さんは天使、別の呼び名で御使いの存在を信じますか？ クリスマス物語には欠かせない登場者ですし、家に飾ったツリーにはきつと可愛らしい天使の人形が吊してあるはず。西洋の絵画でもお馴染みですね。でも、どこか現実離れた架空の存在、いてもいなくてもいいような、神話世界の話に聞こえるでしょうか。「サンタクロースはいるのですか？」、これは毎年クリスマスの時期になると話題に上

つるみの風 第46号
2021年12月11日発行
鶴見聖契キリスト教会
〒230-0074 横浜市
鶴見区北寺尾1-16-7
TEL 045-572-0857

る、古くて新しい質問。少女バージニアから送られた質問に大衆紙サン紙の社説でチャーチ氏が答えた心温まるエピソードは有名ですね。ここでは、「天使はいるのですか？」という問いかけをめぐる、聖書のクリスマス物語を紐解いてみましょうか。

●ザカリヤとマリアへ

クリスマスの出来事は、天使ガブリエルによる祭司ザカリヤへの洗礼者ヨハネ誕生の知らせ、ナザレの処女マリアへの受胎告知から始まります。特にマリアへの告知は、様々な絵画の題材にもなっていますが、天使とマリアの生き生きとしたやりとりが聖書に記録されています。「おめでとう、恵まれた方」といきなり登場する天使、何の挨拶か考え込むマリア、そして驚くべき告知。素直に疑問をぶつけ、「神にとつて不可能なことは何もありません」とのだめ押しのことばに、「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことば通り、この身になりますように」(ルカの福音書一・三八)と、健気にも身を挺して従うマリアでした。

●ヨセフに現れた天使

やがてマリアは妊娠し、小さなナザレの村がざわめいて、婚約者ヨセフの耳にもその事実が届きます。当時の婚約は結婚と同等で、一年の準備を経て同

居する慣わし。正しく心優しいヨセフは悩んだあげく、マリアをひそかに離縁しようとした決心しますが、心騒がす夜の眠りに天使が現れ、事の次第を告げるのです。そして「マリアは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方がご自分の民をその罪からお救いになるのです」(マタイの福音書一・二二)と締めくくります。ヨセフは天使が命じたとおりにマリアとの関係を保ち、あのベツレヘムにある家畜小屋での忘れられない最初のクリスマスを迎えるのです。彼もまた、主なる神と遣わされた天使とを信じる人でした。



●そして野原の羊飼いたちにも

最後に登場するのは、ベツレヘム郊外の野原で羊の群れを夜通し見守る羊飼いたち。「すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた」(ルカの福音書二・九)のでした。真つ暗闇の野原を真昼のように照らす主の栄光。二〇一三年二月ロシアのチェリヤビンスク州に落下した隕石の動画をみると、辺りが真昼のように照らされていますが、こんな感じだったのかもしれない。しかも、「すると突然、その御使いと一緒におびただしい数の天の軍勢が現れて、神を賛美した」(一二三)のです。二〇〇一年一月

一九日の未明、おびただしい数の流星が天を埋め尽くした、しし座流星群を思い出します(天文ネタばかりでごめんなさい)。天使の大集団が去った後、羊飼いたちは「布にくるまうって飼葉

桶に寝ている救い主」という、天使が伝えた目印を信じ、夜のベツレヘムにイエスを捜し当てたのでした。天使の助けと、それを素直に受け止める心が結びついた、素晴らしい記録です。

●ローラの祈り

アメリカのTVドラマシリーズ『大草原の小さな家』は、NHKで何度も再放送され、我が家の子どもたちも大ファンだった人気番組。今では某ア○ゾンプライムで全二百数十話が無料視聴出来るのですが、そのシーズン1に「ローラの祈り」という前篇後篇合わせて一時間半の話があります(ネタバレ注意)。

インガルス家に生まれた男の赤ちゃんばかりを父が可愛がっていると思ひ込んだローラは、その子が病気になるまで回復を祈らなかつたため、亡くなった際に自分のせいだと責任を感じ、神の近くで祈ったら奇跡が起きると信じて、書き置きを残し、山に登ります。

冷え込む山頂で野宿をした翌朝に現れたのが、ローラに毛布を掛けてあげた見知らぬおじさん。彼はローラの名前を刻んだ十字架ペンダントを作ったローラの首にかけ、川辺に連れて行ってそれが首から外れ、川を流れ下るよう仕向けるのですが、それはローラを捜す家族に居場所を知らせるためでした。

下流でそれを見つけた父は上流へと走り、おじさんの焚き火の煙を目印にしてついにローラと再会するも、いつの間にかあのおじさんはいなくなり、番組で特にコメントはな

いのですが、間違いなくこれは天使の助けを描いた話。天使らしくない普通のおじさんがその役を演じていて、嬉しくなりました。

翼の生えていない天使、そう、映画『素晴らしき哉、人生！』に登場する二級天使フランシスも、初老のおじさんでした。け。もしかしたら天使は私たちの先入観をあざ笑うように、ごく普通の人の姿で、さりげなく私たちの人生を援助してくれているのかもしれない。

●忘れられない贈り物



個人的なエピソードをひとつ。あれは確か、三〇歳で牧師になって二年目のクリスマス。前日までクリスマス札押やイブ札押の働きに追われ、家内共々疲れ切っていて、我が家のクリスマス準備が何も出来ないまま、二五日の夜になりました(二五日は教会員それぞれ家庭クリスマス)。三歳になる娘に「何もプレゼントを用意できなくてごめんね」と言いながら、夕食後、食卓に小さなツリーを置き、キャンドルをともして家庭クリスマスを過ごしていました。そうしたら、夜八時きっかりに、教会の駐車場へ、フォルクスワーゲン・ビートルのエンジン音を響かせながら、教会の婦人が来訪。何と、私たち家族三人のため、予告なしにクリスマスプレゼントをどっさり届けてくれたのです。思わず「わー、〇〇天使が現れた！」(〇〇には教会員の名前が入ります)と大騒ぎ。何だか泣きそうになりました。その婦人はクリスマス祝会で天使の

役だったのです。だから我が家は、神から遣わされ私たちを援助する天使の存在を真面目に信じて止みません。

●天使の姿と鈴の音と

翼のない新米天使が神から託された仕事を終えて翼をもらえば、チリリンと鈴が鳴るそのです。もしかしたら、私たちの耳に鈴の音が聞こえないほど世の中は騒がしく、心の耳が閉じてしまっているのかもしれないですね。「神さま、クリスマスに救い主キリストをお送りください。あなたを忘れていろいろなこと心落ち着かず、不安な生活に押し潰されそうなの私をお許しください。そんな罪深い私の罪を赦すため人としてこの世界に生まれ、十字架に死んで三日目に復活し、私たちが神とともに生きる人生を歩めるよう、あの日イエス・キリストをお送りください。こんな祈りをささげてみませんか。きっとあちこちに天使の姿を垣間見、鈴の音の気配を感じる事が出来ると思いますよ。

<聖書を読む会>

- 開催日：原則第1、第3土曜日
変更になる月があります。
- 時間：午後2時～4時
- 場所：寺尾地区センター他
- ※開催日と場所はHPでご確認ください。
- 問合せ先：045-901-9560 村田